

1. 平常時の対応

記載例

◆ 看護・衛生用品

メンテナンス担当: ●●●●●●

品名	数量	保管場所	購入日
紙おむつ (20枚)	10袋	1階倉庫	20XX年●月
簡易トイレ (10セット)	10箱	1階倉庫	20XX年●月
生理用品 (20個)	5袋	1階倉庫	20XX年●月
ウェットティッシュ (40枚)	10袋	1階倉庫	20XX年●月
ティッシュ (5箱)	10セット	1階倉庫	20XX年●月
タオル	100枚	1階倉庫	20XX年●月
ガーゼ (10枚)	10袋	1階倉庫	20XX年●月
絆創膏 (50枚)	10箱	1階倉庫	20XX年●月
消毒薬	30本	1階倉庫	20XX年●月
包帯	30個	1階倉庫	20XX年●月
三角巾	30枚	1階倉庫	20XX年●月

1. 平常時の対応

記載例

◆ 日用品

メンテナンス担当: ●●●●●●

品名	数量	保管場所	購入日
ビニール手袋 (100枚)	5箱	1階倉庫	20XX年●月
使い捨てコップ (10個)	20袋	屋外倉庫	20XX年●月
使い捨て容器 (10枚)	20袋	屋外倉庫	20XX年●月
ラップ (5m)	10本	屋外倉庫	20XX年●月
アルミホイル (3m)	10本	屋外倉庫	20XX年●月
割り箸 (100本)	5袋	屋外倉庫	20XX年●月

1. 平常時の対応

記載例

◆ 災害用備品

メンテナンス担当: ●●●●●●●●

品名	数量	保管場所	購入日
ブルーシート (1.8×1.8m)	10枚	屋外倉庫	20XX年●月
ポリ袋(3L)	50枚	屋外倉庫	20XX年●月
ポリタンク(5L)	10個	屋外倉庫	20XX年●月
懐中電灯	10個	屋外倉庫	20XX年●月
ラジオ(手回し充電)	3台	屋外倉庫	20XX年●月
カセットコンロ(本体)	5台	屋外倉庫	20XX年●月
カセットコンロ(ガス)	30本	屋外倉庫	20XX年●月
乾電池・単3(10本)	10パック	屋外倉庫	20XX年●月
乾電池・単4(10本)	10パック	屋外倉庫	20XX年●月

1-8. 施設内避難の検討

検討すべきこと

- ◇ 水害により浸水のおそれがある場合等の避難場所について検討する

対策のポイント！

- ◆ 水害による浸水のおそれがある場合は、施設外ではなく、施設内の上層階などへの垂直避難についても検討しておく。
- ◆ 避難先を検討するとともに、避難経路・方法も予め検討する。

<ご参考：避難補助ツール>

【布製担架】



出典：エイ・エヌ・エス株式会社(防災用品販社)
HP : <http://ans-bousai.com>

【おんぶ紐】



【取手付ベッドパッド】



出典：有限会社 岩本商事HP
HP : <http://www.ganpon.com/SHOP/D-178.html>

1. 平常時の対応

記載例

1-8. 施設内避難の検討

火災発生時の避難

	避難場所候補
1	駐車場（東側）
2	駐車場（西側）
3	

地図および避難経路は
巻末に添付。

施設内見取図等を印刷し、避難場所・経路を書き込み巻末に添付する。

水害発生時の避難

水害

	避難場所候補
1	3階 多目的ホール
2	2階 談話室、廊下
3	

地図および避難経路は
巻末に添付。

施設内見取図等を印刷し、避難場所・経路を書き込み巻末に添付する。

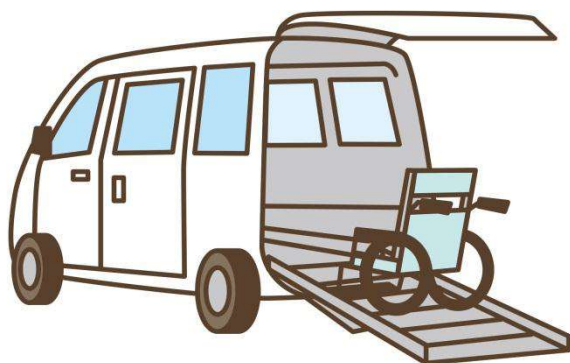
1-9. 施設外避難の検討

検討すべきこと

- ◇ 施設外の避難先と避難方法について検討する
- ◇ 避難先で最低限のケアを継続するための必要備品を検討する

対策のポイント！

- ◆大規模地震などにより、施設内に留まることが危険な場合、施設外への避難が必要になる。避難先として、広域避難場所などが考えられる。
- ◆避難経路・方法を予め検討したら、車いすに職員を乗せるなどして、実際に避難経路を辿ってみる。辿った結果、避難が難しいようであれば別のルートを検討する。
- ◆利用者に配慮した設備や備品が避難場所にあるとは限らない。最低限のケアが継続できるよう、必要備品を検討し、すぐに持ち出せるように準備しておく。



1-9. 施設外避難の検討

施設外への避難

	避難場所候補	避難方法
1	●●公園	【建物からの一時的な避難】 徒歩または車いすによる避難。
2	●●自治会館（広域避難場所）	【地域全体が避難】 送迎用車両にて避難。 早急な避難が必要な場合は、職員の通勤車両も活用。
3	高齢者施設 ○○苑	【長期に渡る避難】 当施設の送迎用車両または受入施設の送迎車両による避難。

地図および避難経路は巻末に添付。

施設から避難場所までを掲載した地図を印刷し、避難場所・経路を書き込み巻末に添付する。

1. 平常時の対応

1-10. 利用者情報の持ち出し

検討すべきこと

- ◇ 自施設の職員以外にも利用者のケアが継続できるよう、必要な利用者情報をまとめておく

対策のポイント！

- ◆ 外部へ避難する場合、避難先において他施設の職員や、派遣されたボランティアの方々がケアを行う場合も考えられる。
- ◆ 職員でなくとも適切にケアを実施できるよう、最低限の利用者情報をまとめておく。

<ご参考:まとめておくと良い利用者情報例>

- 氏名 介護保険の情報(要介護度、被保険者番号等)
- 医療保険の情報(保険者番号等)
- 服薬状況
- 緊急連絡先(家族等)
- ケアの状況(食事・排泄等)



- ◆ 利用者情報は担当者を決め、定期的に最新の情報に更新しておく。
個人情報であるため、平時の情報の管理に留意する。

1. 平常時の対応

記載例

1-10. 利用者情報の持ち出し

以下のような利用者カードに必要事項を記入し、適切に保管する。

利用者カード例

更新日： 年 月 日

基本情報	利用者写真貼付	利用者氏名	
		生年月日 M・T・S 年 月 日(歳) / 男・女	
		介護保険に関する情報	
		利用者家族の連絡先	
医療情報		介護情報	
病歴		食事	
服薬状況		排泄	
その他		その他	

高齢者福祉施設 ●●ホーム
●●市●●町・・・・・・・・・・
電話：××-××××

1-11. 避難情報の確認

検討すべきこと

◇ 水害が想定される場合、**情報収集の手段や、どの時点で避難を開始するか**の判断基準を検討しておく

対策のポイント！

- ◆ 水害は大地震と違い、一般的に大雨などの事前の予兆がある。そのため、行政から出される「避難情報」を収集しておき、早めの対応を心掛ける。
- ◆ 停電が発生することも想定されるため、その場合、「どこに」「どのように」情報をとりにいか、確認しておくことも重要。
- ◆ 避難情報には「避難準備情報(※)」「避難勧告」「避難指示」の3種類があり、内容を確認する。※避難行動に時間がかかる身体障害者や高齢者等を早めに避難させるために出される避難情報
- ◆ 避難情報は、マスメディアの情報(テレビ、ラジオ等)で確認できるが、必要に応じて行政とも連絡を取り合い、情報の確認、対応の準備を行う。
- ◆ 避難情報が出されていないなくても、**要配慮者の避難は時間を要するため、「空振り」をおそれず、早期の段階から自主避難を検討することも重要。**

<ご参考: 雨の強さと降り方> 出典: 気象庁HP http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/amehyo.html

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る				道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる					雨による大規模な災害の発生のおそれが高く、厳重な警戒が必要

1. 平常時の対応

記載例

1-11. 水害時の避難情報の確認

避難開始判断

水害

- ◆当施設所在地域に、(●●市)から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された場合、避難を開始する。
- ◆避難先は、「1-9. 施設外避難の検討」を参照。

【参考】

避難情報の種類	とるべき避難行動
避難指示 (緊急)	緊急に避難して下さい。 外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難して下さい。
避難勧告	速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、屋内の高いところに避難して下さい。
避難準備・高齢者等避難開始	次に該当する方は、避難を開始して下さい 〔・お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方 ・〇〇川沿いにお住まいの方(※) なお、避難場所への避難が困難な場合は、近くの安全な場所に避難して下さい。 それ以外の方については、気象情報に注意し、危険だと思ったら早めに避難をしてください。〕

社会福祉施設などでは、自力避難が困難な方も多く利用されており、避難に時間を要することから、テレビやラジオ等の情報を常に確認し、「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたら速やかに避難を開始してください。

2. 初動時の対応

解説

2-1. 利用者・職員の安全確保

検討すべきこと

- ◇ 地震が発生した際の、利用者および職員自身の安全確保策を確認する
- ◇ 揺れが収まった際の、余震等への対応として実施すべき事項について検討しておく

対策のポイント！

- ◆ 大きな揺れが起きた時は、目の前の利用者と自身の安全を確保する。
- ◆ 居室や食堂など、さまざまな場面で、具体的にどのような対応が望ましいか検討しておく。

例	大きな揺れが起きたとき	揺れが収まったあと
居室で介護中	介護を中断し、ベッド脇でしゃがみ、頭を守る。利用者がベッドから転落しないよう見守る。	居室内にケガ人がいないかチェックし、窓に近いベッド利用者は窓から離す。

- ◆ 揺れが収まった後は、避難経路を確保し、負傷者がいれば救護を行う。



2. 初動時の対応

記載例

2-1. 利用者・職員の安全確保

	大きな揺れが起きたとき	揺れが収まったあと
居室で介助中	介助を中断し、ベッド脇でしゃがみ、頭を守る。利用者がベッドから転落しないよう見守る。	居室内にケガ人がいないかチェックし、窓に近いベッド利用者は窓から離す。
食事介助中	食事介助を中断し、利用者が慌てて誤嚥しないよう声を掛けつつ、体を支える。食べ物や食器が落下しても拾わない。	食器などはテーブル中央にまとめる。落ち着いてこの場に留まるよう、利用者に指示する。
トイレ介助中	便座から転落しないよう利用者を支えながら脇にしゃがむ。できれば、個室のドアを開けておく。	ケガが無いか確認し、車いすに移乗させトイレから出る。トイレ内に他にケガ人がいないか確認する。
入浴介助中	利用者が立ち上がって転倒しないように支えながら脇にしゃがむ。窓ガラスや鏡から離れる。浴槽内に利用者がいるか確認する。	ケガ人や浴槽内に溺水者がいれば救出する。利用者を車いすに移乗してタオルを掛けて脱衣室に移動する。
夜勤中	その場で自分の身を守る対応を行い、揺れが収まるまで待つ。	すぐに居室の巡回を行い、起きた人はデイルームに移動させる。ベッド内の利用者には転倒物から守るためベッド柵やオーバーテーブルを設置する。

2. 初動時の対応

解説

2-2. 建物・設備の被害点検

検討すべきこと

- ◇ 迅速な安全確認を行うため、確認すべき建物・設備の点検項目を検討しておく

対策のポイント！

- ◆ 介護職員は、利用者対応に注力し、事務職員を中心に点検を行う。
- ◆ 予め点検項目を決めて点検表などにまとめておき、漏れや重複なく点検できるように準備しておく。
- ◆ 点検担当者が迅速に点検できるよう、点検表はコピーしておく。
- ◆ 点検結果は速やかに責任者に集約し、避難の要否を検討する。



2. 初動時の対応

記載例

2-2. 建物・設備の被害点検

以下のようなチェックリストを用意しておき、被害状況の点検を行う。

点検項目

対象	状況(いずれかに○)	対応事項/特記事項	
建物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	
	エレベーター	利用可能／利用不可	
	電気	通電 / 不通	
	水道	利用可能／利用不可	
	電話	通話可能／通話不可	
	インターネット	利用可能／利用不可	
建物・設備(フロア単位)	ガラス	破損・飛散／破損なし	
	キャビネット	転倒あり／転倒なし	
	天井	落下あり／被害なし	
	床面	破損あり／被害なし	
	壁面	破損あり／被害なし	
	照明	破損・落下あり／被害なし	

2. 初動時の対応

解説

2-3. 利用者・職員の安否確認

検討すべきこと

- ◇ 漏れなく利用者の安否確認が実行できる方策を検討する
- ◇ 非番職員が自主的に安否報告するルール・方法を検討する

対策のポイント！

- ◆ フロア、ユニット毎などで安否確認を行い、報告ルール・ルートを明確にしておく。
- ◆ 非番職員は、緊急連絡網の災害時連絡先に自主的に安否報告をさせる。
- ◆ その他「NTT災害用伝言ダイヤル」や「Web171」の活用も検討しておくとうい。

なお、蓄積件数や保存期間は無制限ではない。利用方法など事前確認しておくとうい。

<ご参考：三角連絡法>

被災地への電話は繋がりにくくなるが、被災地からの電話は比較的繋がることが多い。

例えば遠方の交流のある施設などを中継点とし、職員・施設が互いに連絡を入れる。

<ご参考：災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板> ※①②③は連携していないので注意

■2011年7月現在

名称	アクセス方法	基本的な使い方	注意事項
①災害用伝言ダイヤル (固定、携帯電話からも連絡可能) ※NTT東西提供	171にダイヤル	・自分の安否は自宅電話番号で登録する ・他人の安否は再生して確認する	・登録時に携帯電話の番号では登録できない。 ・海外から171は利用できない。 ・最大10件まで
②災害用ブロードバンド伝言板 (Web171) ※NTT東西提供	ブラウザからアクセス。 携帯サイト (i-modeなど) からアクセス可能	・固定、携帯電話番号を指定すれば、何れも登録・再生可能 ・音声以外の画像、動画も登録可	・携帯からアクセスする場合はリンク先がわかりづらいので検索が必要。
③ケータイ「災害用伝言板」 ※各携帯キャリア提供	携帯サイトからアクセス (キャリアの壁なし)。 PCのブラウザからもアクセス可能	・携帯サイトからアクセスし、自分の安否を登録する	・ブラウザからアクセスする場合はリンク先がわかりづらいので検索が必要。 ・他人に安否を問うことはできない (確認だけできる) ・一部の人 (家族等) に安否登録結果を携帯メールで自動送信することが可

2. 初動時の対応

記載例

2-3. 利用者・職員の安否確認

利用者・職員の安否確認

- ◆ 利用者・職員の安否確認は、(**各フロアの職員**)が行い、
(**フロア責任者が施設長**)に報告する。
- ◆ 確認・報告する事項は、(**利用者・職員の人数と安否**)。

非番職員の安否確認

- ◆ 自宅等で被災した場合は、(**災害用伝言ダイヤル**)で、
施設に自身の安否情報を報告する。
- ◆ 報告する事項は、自身・家族が無事かどうか、出勤可能か。

2. 初動時の対応

解説

2-4. 電気が止まった場合の業務継続策

検討すべきこと

- ◇ 電気が止まった時の代替手段を検討しておく
【自家発電機が設置されている場合】
- ◇ 限られた電力を優先的に使用すべき設備・機器を検討しておく

対策のポイント！

【自家発電機が設置されていない場合】

- ◆ 電気なしでも使える代替品(乾電池や手動で稼働するもの)の準備や業務の方策を検討する。

【自家発電機が設置されている場合】

- ◆ 自家発電機を稼働させられるよう、予め自家発電機の設置場所・稼働方法を確認しておく。
- ◆ 自家発電機のカバー時間・範囲を確認し、使用する設備を決めた上で優先順位をつける(例. 最優先:医療機器・情報収集、優先:照明・空調)

<東日本大震災での通信被害状況等>

- ◆ 地震直後は東北電力管内のほぼ全域で電力供給停止。被災後1週間時点での復旧割合はともに9割程度。

<ご参考:電気が止まった場合の代替品(例)>



自動車電源変換機 (シガライターDC12V⇒AC100V)



ソーラーバッテリー充電器
(充電式電池にソーラーで充電)

2. 初動時の対応

記載例

2-4. 電気が止まった場合の業務継続策

代替設備

代替設備・備品	仕様等
自家発電機	400Kw×8時間使用可能。 燃料はガソリン。
乾電池	災害用備蓄品として、単3・単4、各100本

優先的に使用する設備

優先順位	設備	詳細
1	医療機器	喀痰吸引・人工呼吸器など
2	情報機器	テレビ・インターネットなど
3	冷蔵庫・冷凍庫	夏場は暑さ対策としてアイスノン・ 氷のうを冷やす
4		

2. 初動時の対応

2-5. 水道が止まった場合の業務継続策

検討すべきこと

- ◇ 飲料水および生活水の確保の方法について検討する
- ◇ 水を使用しなくてもよい代替策を検討しておく

対策のポイント！

- ◆ 飲料水用のペットボトルなどは、当面の運搬の手間を省くため、予め居室に配布するなど工夫しておくといよい。
(ご参考:一般成人が1日に必要とする飲料水は1.5~3.0リットル程度)
- ◆ 生活水の多くは「トイレ」「食事」「入浴」で利用され、対策は「水を使わない代替手段の準備」が基本。「トイレ」であれば簡易トイレやオムツの使用、「食事」であれば紙皿・紙コップの使用などが代表的な手段である。
- ◆ 「入浴」は優先業務から外すことで、生活水の節約にもつながる。
- ◆ 給水車から給水を受けられるよう、十分な大きさの器を準備しておくことも重要である。



2. 初動時の対応

記載例

2-5. 水道が止まった場合の業務継続策

飲料水の確保

確保方法	詳細
備蓄品の飲料水	1階倉庫および2階倉庫に備蓄しているペットボトルの飲料水を使用。
給水車による配給	給水車による水の配給が実施された場合、屋外倉庫に備蓄しているポリタンク（5L）を活用。

生活水の確保

確保方法	詳細
貯水槽	屋上に設置している貯水槽の水を使用。タンク下の蛇口からポリバケツ等を使用して各階へ運搬する。
施設裏手の小川	小川からポンプで水を汲んで使用する。

2. 初動時の対応

2-6. トイレが使用できなくなった場合の業務継続策

検討すべきこと

- ◇ トイレが使用できなくなった場合の代替策、および、利用者の排泄介助をどのように行うのか検討する
- ◇ 衛生面を確保した計画を検討する

対策のポイント！

- ◆ 深刻な職員不足に陥る中で、発生する排泄介助は大きな負担になる。
- ◆ 東日本大震災では、一カ所に集めた利用者に一時的におむつを着用してもらい、定時に交換することで乗り切ったという事例が確認された。
- ◆ 職員のトイレ対策としては、簡易トイレ、仮設トイレなどを検討する。
- ◆ 女性職員のために、生理用品などを備蓄しておくことも必要。
- ◆ 排泄物などは、ビニル袋などに入れて密閉し、利用者の出入りの無い空間へ、衛生面に留意して隔離・保管しておく。敷地内に埋めるのは、穴掘り業務や後に消毒する必要が生じるためおすすめしない。

<ご参考：簡易トイレ(例)>

便器にかぶせるだけでトイレが使えるタイプもある。
使用後は、「薬剤」が水分を吸って汚物を固化。
約1ヵ月間、悪臭や菌の発生を抑えてくれる。



出典：カタログハウス

<http://www.cataloghouse.co.jp/living/security/1101290.html>

2. 初動時の対応

記載例

2-6. トイレが使用できなくなった場合の業務継続策

利用者のトイレ対策

- ◆ 断水、配管不備、浄化槽の損傷等により、トイレが使用できなくなった場合、利用者の排泄介助は以下の代替策にて対応する。

代替策	詳細
オムツ着用	初動時・人手不足時などは緊急避難として排泄介助の要・不要に関わらずオムツ着用。 オムツ交換は提示に集中的に実施。

職員のトイレ対策

- ◆ 断水、配管不備、浄化槽の損傷等により、トイレが使用できなくなった場合、職員は(**備蓄品の簡易トイレ**)を使用する。

排泄物の保管場所

保管場所候補1	北側 駐車場
保管場所候補2	西側 花壇横

2. 初動時の対応

解説

2-7. 暑さ・寒さ対策

検討すべきこと

- ◇ エアコン、暖房器具などが使用できなくなった場合の代替策を検討しておく

対策のポイント！

【暑さ対策】

- ◆ 暑さ対策では、利用者の脱水症状を防ぐために、水分補給を第一とする。
- ◆ 自家発電機がある場合は、冷凍庫を稼働させてアイスノンを冷やしたり、氷を作ったりして、利用者の体を冷やすのに使用する。

(ご参考)

大規模地震が夏季に発生した場合、暑さによる脱水症状などのほか、

①薄着による負傷者の増大、②衛生状態悪化による感染症の蔓延などの影響も現れると考えられます。

【寒さ対策】

- ◆ 真冬に被災した場合、停電により空調が停止した中では、湯たんぽ、毛布、使い捨てカイロ、灯油ストーブなどが重宝する。



2-7. 暑さ・寒さ対策

暑さ対策

- ◆ 真夏の暑さ対策として、以下を準備しておく。

品名	個数	保管場所
アイスノン	50個	2階倉庫
氷のう	20個	2階倉庫

寒さ対策

- ◆ 真冬の寒さ対策として、以下を準備しておく。

品名	個数	保管場所
湯たんぼ	20個	2階倉庫
使い捨てカイロ	50個	2階倉庫
毛布	30枚	屋外倉庫

3-1. 地域貢献のための準備

検討すべきこと

- ◇ 地域貢献を行うことができるか、施設としての方針を決め、それに対する事前準備を検討する

対策のポイント！

- ◆福祉介護事業者は、地域に根差した存在であり、災害時には地域への貢献を行うことが望まれる。
- ◆しかし無策で地域貢献を行うと、現場に無用の混乱を生じさせる。
- ◆地域の在宅高齢者を受け入れるなら、利用者・職員用とは別に、受入者用の備蓄品や受入スペースを検討するなど、「地域貢献には準備が必要」であることを認識する。

<ご参考：近隣(地域社会)対応例>

想定される要請	留意点
近隣住民への避難場所の提供	特に、火災リスクが高い地域の場合、広い敷地に事業所が立地していると、延焼を避けて近隣の住民が逃げ込んでくる可能性が高いと思われる。 提供する場所や期間 を事前に検討しておくとい。
近隣住民への備蓄食料・飲料の提供	事業所内に十分な備蓄があれば問題はないが、ない場合は、 提供の可否、提供する備蓄品(例:水のみ提供)、提供する相手方(例:町内会単位で要請があったのみ等)などを整理 しておくことが有効。
外部の帰宅困難者への宿泊場所の提供	提供する場合、より セキュリティに配慮した場所 を選定する必要がある。
自治体からの場所提供の要請	事業所が広い敷地に立地している場合、社会インフラ(道路・電気・水・ガス等)を復旧する際の資材・機材置き場として、また、死者がたくさん出た場合の遗体安置所として、場所の提供を依頼される可能性がある。 この場合を想定して、 提供する場所や期間 を予め整理しておくことが有効。

3. 地域貢献

記載例

3-1. 地域貢献のための準備

地域住民等の受入の準備

- ◆ 在宅利用者・地域住民などの受入を想定して、以下の備蓄を施設利用者・職員分の他に、余分に準備する。
- ◆ 在宅利用者・地域住民などの受入を行う場合は、専用のスペースを用意する。

品名	数量	保管場所	消費期限
飲料水（500ml）	100本	2階倉庫	20XX年●月
乾燥米（アルファ米）	50食	2階倉庫	20XX年●月
缶詰（さば）	50缶	2階倉庫	20XX年●月
缶詰（やきとり）	50缶	2階倉庫	20XX年●月
毛布	50枚	屋外倉庫	

受入場所候補1	1階 玄関前のホール
受入場所候補2	1階 食堂

4. 事業中断

解説

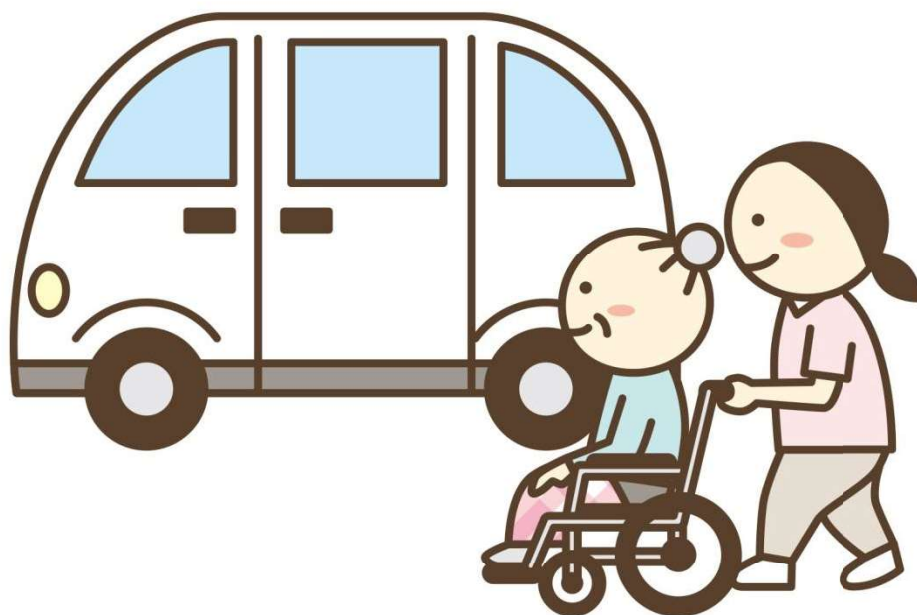
4-1. 事業中断の対応

検討すべきこと

- ◇ 事業中断の判断をした場合に対応すべき事項を洗い出す

対策のポイント！

- ◆通所事業は、水害が発生する可能性が高まった場合など、利用者の安全を優先して、家族へ引き渡すなどの措置を講じることを検討する。
- ◆但し、サービス提供中に被災し、自宅や帰宅経路が危険な場合や家族が自宅に不在の場合などは一時的に施設で預かるなど、臨機応変な対応が必要となる。



4-1. 事業中断の対応

対応すべき事項

入所利用者への対応	<ul style="list-style-type: none">✓ 法人内の他施設への受入可否・人数調整を行う。✓ 利用者および家族への説明し、ご納得いただく。✓ 利用者の移送時は、受入施設から迎えに来てもらい、受入施設・当施設の職員による利用者の本人確認および注意事項の伝達を行う。
通所利用者への対応	<ul style="list-style-type: none">✓ 当施設に滞在中の利用者は、家族に連絡の上、安全に自宅へ送迎する。または家族に連絡し、迎えを依頼する。✓ 利用者家族と連絡が取れない場合、または、利用者の自宅が被災している場合は、当施設に滞在してもらおう。✓ 当施設に滞在することが難しい場合は、上記「入所利用者への対応」と同様に対応する。
職員への対応・指示	<ul style="list-style-type: none">✓ 利用者の全員を安全に他施設、ご自宅へ送り出すこと。✓ 早急な事業再開を目指し、施設の復旧に取り組む。✓ 復旧作業が実施できない場合は、施設長へ指示を仰ぎ、受入施設等で業務を行う。✓ 自宅や家族、自身の状況も踏まえ、無理のない範囲で上記対応を行う。

MEMO

MEMO



立ちどまらない保険。

MS&AD MS&ADインシュアランスグループ